

薬剤科 DI ニュース

尿失禁治療薬について

蓄尿障害による切迫性尿失禁や腹圧性尿失禁では、膀胱排尿筋の緊張を和らげて膀胱容量を増大させることと、蓄尿時の尿道抵抗を尿が漏出しないうちに維持することが大切です。そのため、①抗コリン薬、②平滑筋弛緩薬、③β₂刺激薬など膀胱排尿筋の収縮を抑制する薬剤や尿道抵抗を高める薬剤が用いられます。また、尿排出障害による溢流性尿失禁などでは、尿道抵抗を低下させる④α遮断薬が用いられます。

① 抗コリン薬

抗コリン薬は膀胱排尿筋の緊張を減弱させるため、膀胱排尿筋の無抑制収縮に伴う切迫性尿失禁に用いられます。

主な商品名	一般名	主な適応	特徴
バップフォー*	塩酸プロピペリン	下記疾患又は状態における頻尿、尿失禁 神経因性膀胱、神経性頻尿、不安定膀胱、膀胱刺激状態（慢性膀胱炎、慢性前立腺炎）	【特徴】 ・明らかな下部尿路閉塞症状（排尿困難、尿閉など）を有する患者には、症状がさらに悪化する恐れがあるため禁忌。 ・前立腺肥大症の患者では、排尿障害をきたしていない場合でも、抗コリン薬の投与により排尿障害を起こす恐れがあるため慎重に投与する。
ポラキス	塩酸オキシブチニン	下記疾患又は状態における頻尿、尿意切迫感、尿失禁 神経因性膀胱、不安定膀胱（無抑制収縮を伴う過緊張性膀胱状態）	【主な副作用】 口渇、便秘、腹痛、排尿困難、尿閉、眼調節障害

② 平滑筋弛緩薬

平滑筋弛緩薬は膀胱排尿筋の緊張を減弱させるため、膀胱排尿筋の無抑制収縮に伴う切迫性尿失禁に用いられます。

主な商品名	一般名	主な適応	特徴
ブラダロン*	塩酸フラボキサート	下記疾患に伴う頻尿、残尿感 神経性頻尿、慢性膀胱炎、慢性前立腺炎	【特徴】 ・下部尿路に高度の通過障害を有する患者には、症状がさらに悪化する恐れがあるため禁忌。 【主な副作用】 胃腸障害、胃部不快感、悪心などの消化器症状、肝障害、排尿困難、尿閉

③ β 刺激薬

β 刺激薬は膀胱排尿筋の緊張を減弱させたり、尿道抵抗を増強させるため、腹圧性尿失禁に用いられます。

主な商品名	一般名	主な適応	特徴
スピロペント	塩酸クレンプテロール	下記疾患に伴う尿失禁 腹圧性尿失禁	【特徴】 ・下部尿路閉塞症状（排尿困難、尿閉など）を有する患者には、症状がさらに悪化する恐れがあるため禁忌。 ・過度に使用を続けた場合、不整脈や場合によっては心停止を起こす恐れがあるため、使用が過度にならないように注意する。 【主な副作用】 振戦、腹痛、動悸、低カリウム血症

④ α遮断薬

α遮断薬は前立腺肥大症など下部尿路閉塞による排尿障害に用いられます。

主な商品名	一般名	主な適応	特徴
アピショット	ナフトピジル	前立腺肥大症に伴う排尿障害 (ウラピジル：+神経因性膀胱に伴う排尿困難)	【特徴】 ・比較的効果の発現が早く、中長期の効果も認められており、前立腺肥大症の標準的治療薬である。 ・前立腺を縮小させる作用はない。 【主な副作用】 起立性低血圧、立ちくらみ、めまい、動悸、頭痛・頭重、倦怠感、ほてり、肝機能障害、胃不快感
パソメット	塩酸テラゾシン		
ハルナール*	塩酸タムスロシン		
ミニプレス	塩酸プラゾシン		
エブランテル	ウラピジル		

* 赤字は当院採用品